



TITLE:

染料薬品生産奨励制度

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 染料薬品生産奨励制度. 経済論叢 1915, 1(3): 313-337

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126901>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第

卷一第

論說

●染料藥品生產獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(二)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(三)

雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領やつぶ島研究
地研究ノ一

●享保年間ノ米價調節(二)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農產擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動

●すまゝと教授逝ク

法學博士 戸田 海市

法學博士 左右田喜一郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教授 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戶 正雄

講師 高田 保馬

法學博士 河上 肇

經濟論叢 第一卷 第三號

論說

染料藥品生產獎勵制度

法學博士 戸田 海 市

一

獨逸ニ於テハ一般化學工業就中「コールタール」精製ノ染料藥品ノ生産業カ偉大ノ發達ヲ爲シ、此等ノ貨物ニ付テハ世界各國トモニ大部分之ヲ獨逸ヨリ輸入シ、自國產ヲ以テ之ト競争スルコトハ殆ント不能テアツタ。此ノ如ク獨逸ノ化學工業カ他國ノ競争ヲ許ルササルカ如キ發達ヲ爲シタ所以ハ、之カ生産ニ關スル自然的條件カ特ニ獨逸ニ有利ナリシカ爲メテハナク、一ニ獨逸ニ於ケル化學ノ理論的及應用的研究ノ進歩ト企業經營ノ組織力ノ進歩トニ由ルノテアル。一般工業ノ進歩ニ由テ「コールタール」ノ産額ノ豊富トナレル英國其他ノ國ニ於テモ、或程度マテ之ヲ加

工製精シテ簡易ナル染料ヲ幾分カ國內ニ生産シツツアルガ、化學的研究ノ驚クヘク進歩シタル獨逸ニ於テハ、甲種品生産ノ際ニ得タル副産物ヨリ乙種品ヲ採取シ、更ニ順次丙丁戊等ヲ生産スルト云フカ如ク、廢物利用的ニ原料ノ利用ヲ極度ニ進メ、之ヨリ生産スル染料藥品ノ種類カ非常ニ多ク、其採取率モ甚タ高ク、又其品質モ極メテ優等純良テアル。此ノ如ク原料ノ利用カ完全ニ行ハルルトキハ、企業ニ關スル一般的施設ノ利用モ極メテ經濟的トナリ、之カ爲メ各種ノ生産品ノ價格ハ非常ニ低廉トナリ、其結果第一ニ世界ノ諸地方ニ於ケル天然藍ノ生産業ハ殆ント全ク壓倒セラレ、第二ニ他ノ先進國モ暫ラク油斷シテ居ル間ニ獨逸ノ化學工業カ遙カニ頭角ヲ拔イテ、今日ハ最早ヤ之ト競争スルコトカ實際ニ不能トナリ、特ニ一般ノ精製工業ニ對スル普通ノ保護稅率ニ準シ、二割ヤ三割ノ保護稅ヲ設ケテモ到底國內生産ヲシテ獨逸品ニ對抗セシムルコトカ不能トナツタ。故ニ各國ニ生産セラルル「コールタール」ニシテ其儘ニ又ハ簡單ニ加工シテ之ヲ獨逸ノ染料業ニ供給スルモノカ頗フル多ク、又各國自カラ生産スル染料ハ僅少ノ比較的簡易ナルモノニ限ラレ、更ニ稍複雑ナル染料ノ生産セラルル場合カ幾分カアツテモ、此場合ニハ其生

産過程ノ中技術上困難多費ナル部分ヲ獨逸ノ産業ニ委子テ、他ノ國ハ其結果ヲ利用スルカ如キ有様トナツテ居ルコトカ多イ。

英米等ニ於テハ「コールタール」ノ供給モ頗フル豊富テアリ、科學ノ應用的研究モ進歩シ、資本モ潤澤テアル故、若シモ輸入品價格ニ二倍三倍スルカ如キ高率ノ保護稅ヲ設ケタナラハ、國內ニ於テ染料生産業ヲ起シテ略ホ自給自足ヲ爲スコトハ必シモ難事テハアルマイ。併シ染料ハ各國ノ工業界ニ於テ重要ノ地位ヲ占ムル織緯工業ニ對シ重要ノ原料トナツテ居ル故、之ニ高率ノ保護稅ヲ課スルコトハ甚ダ苦痛テアリ、從ツテ各國ハ強テ染料ヲ國內ニ生産スルヨリモ、廉價ニ獨逸ヨリ輸入シテ之ヲ工業ニ利用スルコトヲ得策トシテ居タノテアル。然ルニ今回ノ大戰爭ノ爲メ、各國ハ染料ノ供給ヲ杜絶セラレテ非常ノ困難ニ陥リ、之ヲ脱スルカ爲メニハ國內生産ヲ起スノ外ナキ事情ニ立至ツタガ、國內生産ノ事タルヤ英國ノ如キ工業ノ進歩シタ國ニ於テモ非常ノ難事トセラレ、如何ナル保護獎勵ヲ施コシテモ短日月ノ間ニ獨逸ニ於ケルカ如キ多種類ノ染料ヲ生産スルコトハ技術上殆ント不能テアリ、其ノ最モ複雑ナルモノハ今後モ獨逸ヨリ輸入スルノ外ナク、又經濟上獨逸ノ如

ク廉價ニ生産ヲ爲スコトハ一層ノ難事ト考ヘラレテ居ル。染料ト同シク「コールタル」ヨリ採取セラルル種々ノ藥品ノ生産ニ付テモ、各國ノ情態ハ略ホ同様ノ關係トナツテ居ル。

工業カ幼稚テアツテ學問ト實業トノ連絡ノ不完全ナ我國ニ於テハ、從來化學染料ノ全部ヲ外國就中獨逸ヨリ仰イテ居タ故、戰爭ニ由ル染料輸入杜絶ノ爲メ其價格ハ五六倍以上ノ騰貴ヲ示シタモノカ多ク、目下ノ國內存在量ハ明確ニ知ルヲ得ナイガ、節約シテ之ヲ使用スルモ更ニ一年以上ヲ支ヘルコトハ頗フル困難ト考ヘラレ、從ツテ輿論ハ之ヲ國內ニ生産スルノ必要ヲ認め、遂ニ過クル臨時議會ノ協賛ニ由テ染料醫藥品製造獎勵法ノ制定ヲ見ルニ至ツタ。今日我國ニ於テ斯業ヲ起コスコトハ英米等ニ於ケルヨリモ更ニ困難テアル。工業及自然科學カ幼稚テアリ、資本カ缺乏シ、企業經營カ拙劣テアルト云フカ如キ工業不振ノ一般的原因ノ存在セル上ニ、化學染料ニ要スル原料「コールタル」ノ供給モ甚タ不充分テアル。假リニ獨逸ノ如キ高歩ノ採取率ヲ實行シ得ルトシテモ、現在ノ「コールタル」ノ供給ヲ以テ國內ニ需用セラルル染料ノ全部又ハ大部分ヲ生産スルコトハ困難テアル。何トナレ

ハ「コールタール」ハ染料以外ニモ數多ノ必要ナル用途ニ向ケラレ、就中軍用品ノ生産ニモ多量ノ必要カアルカラテアル。加之實際我國ニ於テ三五年ノ間ニ獨逸ノ如キ高歩ノ採取率ヲ見ルコトハ期待シ難ク、從ツテ當分ハ恐ラク國內需用ノ三分ノ一又ハ多クモ二分ノ一ヲ技術上生産シ得ルニ過キナイテアラウガ、更ニ獨逸ノ如ク複雜ナル多種類ヲ生産シ、且ツ各種類ノ品質ヲモ獨逸品ノ如ク優良ナラシムルコ困難ハトテアル。加フルニ經濟上獨逸ノ如ク低廉ニ之ヲ生産スルニ至ルノ困難ナルコトハ、技術上ノ困難ヨリモ更ニ大テアル。只タ交戰諸國ニ於テ戰爭中ニ暴騰シタ一般物價ハ戰後ニ至ツテ容易ニ下落セス、從ツテ獨逸ノ染料モ以前ノ如ク低廉ニ輸出セララルコトハ出來マイ。此點ハ染料業ヲ起スニ付テ英佛ノ如キ交戰國ヨリモ我國ニ有利ナ點テアルガ、併シ我市場ニ於テ戰前ニ比シ五六倍ノ價格ヲ保ツガ如キ目下ノ染料暴騰ハ決シテ戰爭終熄後ニ永ク繼續スルコトハナイ。此ノ如ク我國ニ於テ染料業ヲ起スコトハ甚タ困難テハアルガ、併シ纖維工業ヲ以テ基本的工業トスル所ノ我國ニ於テ染料ノ需用ハ多額ニ上ル故、之ヲ國內ニ生産シ得ルニ至レハ經濟ノ發達上有利テアル。又一體ニ自然的富源ノ乏シキ我國ニ於

テハ、工業ヲ發達セシメテ原料ニ對スル加工ノ報酬ニ由リ經濟ヲ維持スルコトヲ必要トシ、其ノ加工ノ程度ノ大ナルホド國民ノ收得スル報酬モ増加スルノテアルガ、此點ヨリ見テ化學工業ノ如キハ最モ有利ナモノテアル。特ニ化學工業ハ遺利ヲ發見シ廢物ヲ利用シ、人力ニ由テ自然的富源ノ貧弱ヲ補フコト大ナルカ故ニ、之ヲ國內ニ發達セシムルコトハ特ニ利益テアル。若シ今日適當ノ保護方法ニ由リ染料生産業ヲ發達セシムルコトカ出來ルナラハ、之ニ伴フテ他ノ種々ノ化學工業モ發達スルノミナラス、斯業ヲ發達セシムルコトハ經濟ト科學トノ連絡ヲ極メテ密接ナラシムルコトテアツテ、之カ爲メニ一般ノ產業界及學術界ニモ有利ノ影響ヲ及ホスコトトナルテアラウ、又染料業ノ如キハ加工ノ程度ノ最モ複雑高度ノモノナル故、普通ノ工業ニ比較シテ科學的教育ヲ受ケタ技術者ヲ使用スル割合カ非常ニ多大テアルガ、我國ニ於テ從來最モ切迫セル社會問題ハ中等程度以上ノ教育ヲ受ケタ者即チ智識階級又ハ新中層階級ノ生活難テアル。故ニ將來化學工業ヲ隆盛ナラシムルコトハ此社會問題ヲ解決スルニ付テモ重要ノ意義カアルト同時ニ、今日智識階級ノ報酬ノ極メテ低廉ナルコトハ化學工業ヲ起スニ付テ最モ好都合テア

リ、此點ハ英米ノ如ク其報酬ノ大ナル國ニ比シテ我國ニ有利デアル。

多クノ化學工業ニ於テ必要トスルカ如キ緻密ナル研究ニ付キ、我國民ハ特ニ大ナル能力ヲ有スト誇ルヲ得ナイノハ勿論デアルガ、併シ同様ノ研究の能力ヲ必要トスル所ノ醫學及醫術ニ於テ我國民ノ維新以來ノ發達カ世界ノ認識スル所トナツテ居ルト云フ事情ニ照セハ、保護獎勵ニ適當ノ方針ヲ取レハ我國ニ化學工業ヲ隆盛ナラシムルノ望カ無イトハ云ハレナイ。先進國ノ工業品ハ自由ニ輸入セラレテ國內市場ニ競爭スルノテアルガ、先進國ノ醫師ノ多數カ都鄙ニ普チク入り來ツテ我國ノ醫師ト競爭スルコトハ出來ナイ。即チ我國ノ醫術ハ先進國民ノ競爭ニ對シテ自然的ニ保護セラレテ居タ爲メニ今日ノ如ク發達シ、之カ爲メ一面ニハ我國ノ智識階級ノ多數ニ好個ノ職業ヲ與ヘテ其社會問題ノ切迫ヲ寛和シテ居ルノデアル。化學工業ニ付テモ適當ノ保護方法ヲ設クルトキハ、之ヲ國內ニ發達セシムルコト尙ホ醫術ノ如クナラシムルコトハ望ミ難キ事柄ヲハナイ。尙ホ今日ハ國內ニ於ケル「コールタール」ノ產額カ不充分デアルガ、今後製鐵所ノ擴張其他一般ノ骸炭消費ノ増加ト瓦斯業ノ發達トニ伴フテ「コールタール」ノ供給増加スルノミナラス、近

キ將來ニ於テ支那本土及滿州ニ於ケル製鐵業ノ發達其他ノ原因ニ由リ、染料製造ノ原料ヲ輸入スルコトモ容易トナルノ形勢カアル。故ニ比較的簡易ナ種類ノ染料ノ生産ヨリ着手シ、研究ノ進歩ト生産組織ノ發達トニ伴フテ漸次事業ヲ擴張スル方針ノ下ニ之ヲ保護獎勵スルコトハ決シテ無謀ノ舉ト云フヲ得ナイ。

産業カ飽クマテ科學ノ力ヲ利用シテ進ムコト、及ヒ企業ノ規模ヲ大ニシテ遠大ノ計畫ヲ立テ、特ニ從來各獨立ノ企業ノ目的トナレル種々ノ生産的過程ヲ一企業ニ合併統一スルコトハ、獨逸ノ石炭乾溜副產物ノ化學工業ニ於テ最モ強ク實現セラレ、之ヲシテ世界的優勝ノ地位ヲ得セシメタ主ナル原因トナツテ居ルガ、元來如上ノ方針ハ一般開明國ニ於ケル工業全體ノ上ニ漸次實行セラレツツアル所テアツテ、獨リ獨逸ノ化學工業ニ於ケル特色テハナイノテアル。故ニ今回ノ戰爭カナクテモ世界市場ニ於ケル獨逸ノ化學的染料ノ獨占的地位ハ早晚破壊セラレ、他ノ各國ハ比較的簡易ナ種類ヨリ着手シテ次第ニ染料生産上獨立スルコトトナルノテアラウガ、今回ノ戰爭ハ明カニ此形勢ヲ促進スルモノテアツテ、我國モ亦此機會ヲ利用スルコトヲ怠ツテハナラス。只タ如何ニ之ヲ利用スヘキヤノ問題ニ向ツテハ周

到ナル注意ヲ拂ハテハナラヌ。

二

染料藥品生産業ヲ起スニ付キ最先ニ必要トスル所ハ大ニ技術上ノ研究ヲ遂ケ熟練ヲ積ムコトテアルガ、之ヲ爲スニハ巨額ノ經費ト多數ノ優秀ナル學者技術家ノ懸命ノ努力ヲ必要トスル。戰後獨逸カ充分ニ其生産力ヲ恢復シ、特ニ其ノ騰貴シタル物價平準ヲ低落セシムルニハ相當ノ年月ヲ要スルテアラウガ、其恢復ヲ見ル迄ニ我染料業ヲシテ長足ノ進歩ヲ爲サシメ、普通ノ品種ニ付テハ略ホ獨逸品ト競争シ得ルニ至ラシメントスレハ、其研究ト練習トニ多大ノ經費ヲ投セテハナラヌ。本來ノ順序トシテハ先ツ此研究ヨリ初メ、其成績カ相當ニ進ンタ後、初メテ商品ノ生産ニ着手スヘキモノノ如クニ考ヘラレルガ、今日ハ國民一般ガ甚シク染料ノ缺乏ニ苦シミ、而モ今次ノ戰爭ハ容易ニ終熄スヘシトハ考ヘラレナイ。加之、コールター精製業ハ火藥ノ如キ國防上必要ノ物品ニ缺クヘカラサル原料ヲ供給スルモノテアツテ、之ヲ國內ニ生産スルノ必要モ差シ迫ツテ居ルノテアルガ、一面ニハ比較的簡易ナ染料藥品ニ付テハ技術上成功ノ見込カ立チ、且ツ此等ノモノノ價格ノ暴

騰セル今日ニ在テハ比較的僅少ノ補助ヲ與フレハ、相當ノ量ヲ生産スルコトカ經濟上可能トナツテ居ル。又化學工業ノ發達ニハ獨リ實驗室内ノ研究ヲ以テ足レリトセス、必ラスヤ同時ニ實際ノ生産の經驗ニ由テ熟練ヲ積マテハナラヌ。此ノ如キ事情ノ下ニ於テ今日技術上ノ研究ト同時ニ商品の生産ニ着手スルト云フコトハ早計トシテ批難スルヲ得ナイ。

染料生産業獎勵策トシテ第一ニ決スヘキハ官民何レノ手ニ由テ之ヲ經營スヘキヤノ問題テアル。之ヲ官營トスルト云ヘハ、工業界ニ對シテ實物教育的意義ヲ有スル模範工場官營ヲ爲スコトテアリ、其事業ノ收支相償フマテニ發達スレハ自然ニ民業カ之ニ倣フテ起リ、之ト同時ニ特別ノ事情ナキ限り官營ハ廢止セラルル運命ヲ有スルノテアル。先ツ其官民營ノ得失如何ト云フニ、官營ノ場合ニハ染料生産業ノ遠大ナル發達ニ最モ必要ナル研究力、目前ノ營利ニ拘泥セスシテ秩序的ニ一貫シテ行ハレ得ルノ利益カアリ、又民營事業保護ノ場合ニ免レ難キ補助金ノ故意ノ濫用モ防キ得ル。固ヨリ官營ノ場合ニハ同一程度ノ研究ヲ行フニ付テモ、其經費カ民營ノ場合ニ比シテ増大スルノ傾ハアルガ、一面民營ノ場合ニハ政府ヨリ下付セ

レタ補助金ヲ研究費ニ投スルコトヲ怠ツテ一般株主又ハ重役ノ利益ノ爲メニ之ヲ濫用スルノ弊カアル。又官營ノ場合ニハ現在ノ大學ヤ工業試験所ヤ早晚設立セラルヘキ理化學研究所トノ連絡モ付キ易イ。故ニ技術上ノ研究ヲ特ニ重要トスル我國ニ於テ染料生産業ヲ起スニ付テハ、財政ニ餘裕カアレハ之ヲ官營トスルコトヲ得策トスルカ如キモ、今日ノ財政ニハ此ノ如キ餘裕ノ乏シキニ反シ、適當ノ保護方法ヲ設クレハ民業ヲ成立セシムルコトハ困難テナイ。特ニ將來事業ノ擴張ヲ必要トスルニ際シ、之ヲ官營トスレハ適當ノ時機ニ其擴張ヲ行フコトカ困難テアルニ反シ、民營ニ在テハ此事モ自由ニ行ハレル。又染料製造ノ原料「コールター」ハ官營ノ製鐵所ニモ相當ニ存在スルガ、更ニ大ナル部分ハ各地ノ瓦斯事業ヤ骸炭生産業ノ有スル所テアツテ、官營ノ場合ニハ此等民有ノ原料ヲ取得スルニ種々ノ不便不利カアルニ反シ、之ヲ多ク所有スル民業者カ協同シテ染料業ヲ起ス場合ニハ此ノ如キ不利ヲ免レ得ル。最後ニ染料生産業ニ取ツテハ技術的研究カ甚タ重要テアルトハ云ヘ、其直接ノ目的ハ商品ノ生産販賣ト云フ營利事業テアツテ、此方面ニ於ケル活動ニ付テハ民營カ官營ニ比シテ多大ノ長所ヲ有スルコトハ拒マレナイ。此

等ノ點ヲ比較スレハ民營主義ヲ採ルコトカ今日ノ事情ニ適當スルト云フ結論ニ達スルノテアル。

次ニ民營主義ノ下ニ業務ヲ行フニ付テハ二種ノ方針ヲ考ヘ得ル第一ハ染料生産ニ關スル研究モ生産モ共ニ全然民業ニ一任シ、政府ノ獎勵ハ只タ之ニ補助金ヲ與フルニ止メル方針テアリ、第二ハ民營ニ於テモ勿論相當ノ研究ヲ怠ルコトハ出來ナイガ、此研究ノ爲メ初メヨリ巨大ノ經費ヲ投シテ理想的ノ設備ヲ爲スコトヲ避ケ、比較的簡易ナ種類ノ生産ニ對シテ多クノ力ヲ注キ、複雑困難ナル研究ニ付テハ他ノ公ケノ研究設備就中近キ將來ニ實現セサルヘカラサル理化學研究所ヲシテ力ヲ盡サシムルノ方針テアル。今此兩方針ヲ比較シテ見ルニ、商品生産者自身カ其生産上必要トスル研究事業ニ付テ全責任ヲ有スルト云フ第一ノ方針カ自然的テアル。併シ之ヲ實行スルカ爲メニハ最初ヨリ巨大ノ資本ヲ固定スルコトヲ必要トスル。然ルニ此ノ如キ巨大ノ資本固定ト云ヘル負擔ヲ有スル企業カ、相當ノ年月經過後ニハ果シテ能ク輸入品ニ對抗シテ自立シ得ルニ至ルヘキヤハ何人モ豫見スルニ苦シム所テアル。最初ニハ事業ノ規模ヲ一層小ニシテ比較的簡易ナル品種ノ

生産ニ多ク力ヲ注クコトカ安全ノ途デアリ、又政府ノ之ニ對スル補助金ノ支出額モ少ナクテ足ルノテアル。今日染料生産業ヲ國內ニ起スト否トヲ問ハス、政府ハ科學ト産業トノ進歩ヲ圖ルカ爲メニハ是非トモ最高學府タル大學ノ研究的設備ヲ完全ニシ、更ニ進ンテ大規模ノ理化學研究所ヲモ設立セ予ハナラヌコトハ、輿論ノ要求スル所テアル。故ニ初メヨリ染料業ヲシテ複雑高度ノ研究ノ爲メニ巨大ノ資本ヲ固定セシムル危險ナ方法ヲ探ラス、當分ハ理化學研究所又ハ理工科大學ヲシテ大ニ染料藥品生産ノ研究ニ力ヲ注カシメ、其研究ノ結果ヲ染料業ニ利用セシムルコトカ得策テアル。又民營事業ニ對スル獎勵方法トシテハ政府ヨリ補助金ヲ與フルコトヲ必要トスルガ、之ヲ與フルノ標準トシテハ今回ノ獎勵法ニ定メタ如ク配當補給ノ方法以外ニ適當ノモノヲ見出シ難イ。然ルニ今染料生産ニ關スル研究ニ付テモ全然之ヲ民營事業ニ一任シ、政府ハ如何ナル種類ノ研究ヨリ着手スヘキヤ、又其研究ニ付テハ如何ナル規模ト手續トヲ探ルヘキヤ、之カ爲メニハ概略何程ノ經費ヲ投スルコトヲ必要トスルヤヲ明ニセス、單ニ民營事業ノ要求スルカ儘ニ配當補給ヲ爲スニ於テハ、到底補助金ノ濫用ヲ防クヲ得ナイ。之ニ反シテ公ケノ研

究的設備ニ於テ研究ニ從事シ、特ニ其研究ニ由テ技術上及經濟上相當ニ成功ノ見込ノ立ツタ種類一付キ、民營事業ヲシテ更ニ研究シ生産セシメテ其範圍内ニ補助スルコトトスレハ、補助金ノ下付ニ付テ有効ニ監督ヲ行フコトカ出來ル。民營事業ヲ補助スルニ方リ、之ヲシテ任意ニ研究ト生産トヲ爲サシメ、之ニ由テ生シタル失費ハ凡テ政府カ負擔スルコトトナレハ非常ノ弊害ヲ生スル故、是非トモ政府ハ生産ノ品種ヲ指定シ、之ニ由テ生シタル損失ヲ補助スルコトトセキハナラヌノテアルガ、政府カ此ノ如キ方針ヲ探ラントスレハ先ツ以テ公ケノ研究所カ存在シ、政府ニ監督上必要トスル智識ヲ與ヘキハナラヌ。勿論民營事業ノ外ニ公ケノ研究所カ獨立シテ存在スルトキハ、兩者ノ連絡ヲ密接圓滿ナラシムルニ付テ種々ハ不便モ起ルテアラウ。又此方針ヲ探ルトキハ民業自身ノ研究カ不充分トナリ、若クハ不當ニ束縛セラルルノ弊モ生スルテアラウ。併シ此方針ハ最初ヨリ巨大ノ資本固定ノ危険ヲ避ケ、以テ民間企業家ヲシテ安ンシテ染料生産業ヲ起サシムルカ爲メニモ、將タ之ニ對スル補助金ノ濫用ヲ防クカ爲メニモ必要テアル。補助金下付ノ年限ヲ一定シ、其以後ハ民業自身ノ力ニ由テ存立スルコトヲ必要トナラシムル方法モ、民

業カ眞面目ノ研究ヲ怠ツテ妄リニ補助金ヲ食ルノ弊ヲ防クニ付キ相當ノ效力ハアルガ單ニ之ノミニ由テ補助金濫用ヲ防クコトハ不能テアル。又此方針ニ由レハ政府カ民業ノ生産ヤ研究ニ干涉シテ其發達ヲ妨クルノ危險カアルトハ云ヘ、此干涉ハ民業カ補助金ヲ受ケントスル範圍内ノ事務ニ關スルモノテアツテ此範圍外ノ研究ト生産トヲ爲スコトハ其自由テアル。民業ニシテ眞ニ遠大ノ利益ニ着眼スルナラハ、是非トモ補助ノ範圍以外ノ生産ニ付テモ大ニ研究シ練習スルコトヲ怠ツテハナラス。

三

以上ノ漸進主義ノ下ニ民營ヲ爲スコトスレハ、如何ナル企業者ニ如何ナル保護ヲ與ヘ、又如何ナル方法ニテ之ヲ監督スヘキヤノ問題カ起ル。先ツ企業者ニ關スル問題ニ付テ見ルニ、從來主ナル瓦斯會社ノ如キハ其副産物タル「コールタール」ニ極メテ簡易ナ加工ヲ爲シテ之ヲ利用シテ居タノテアツテ、今日其設備ニ比較的僅少ノ資本ヲ投スレハ、數種ノ簡易ナル染料ヲ生産スルコトハ技術上必シモ困難ヲナク、又染料價格カ今日ノ如キ暴騰ヲ示スニ於テハ、別段ニ政府ノ補助ヲ得ストモ相

當ノ經驗ヲ積レタ上テ營利的ニ之ヲ生産シ得ルノ見込モアル故、政府カ此ノ如キ副業の生産者ニ向ツテ補助ヲ與フレハ更ニ其生産ヲ進歩セシムルコトカ出來ル。而シテ副業的ニ染料藥品ヲ生産スルノ能力ヲ相當ニ有スル所ノ企業ハ二三存在スル故、政府ノ補助モ其中ノ一企業ニ限ルコトヲ得ナイ。此ノ如キ副業的ノ小規模生産ハ最モ安全ナヤウテハアルガ、併シ此ノ如キ小規模ノ副業の生産ニ由テ經濟的ニ染料生産ヲ爲シ得ル程度ハ極メテ限ラレタモノテアツテ、戰後染料價格ノ漸次下落スルニ從ヒ其生産ハ殆ント絶滅スルニ至リ、夫レ迄ノ政府ノ補助モ殆ント無意義トナリ了ルテアラウ。初メヨリ染料生産ヲ相當ニ多量ナラシメ、且ツ此生産業ヲ永續發達セシメントスレハ、數個ノ小企業カ重複シテ其生産設備ヲ擴張スルヨリモ、之ヲ合併シテ更ニ大規模ノ生産ト爲スコトヲ必要トスル。又初メニ獨立セル數個ノ企業カ後ニ至ツテ合同ヲ行ハントスレハ、利害關係ノ區々ナルカ爲メニ、種々ノ困難ト弊害ヲ生スル。故ニ保護制度ヲ設ケテ大ニ斯業ヲ發達セシメントスレハ、寧ロ初メヨリ利害關係者ノ合同ニ由リ相當ニ大規模ノ專業の生産ヲ爲サシムルコトヲ得策トスル。加之數個ノ小企業就中副業的ノモノヲ嚴重ニ監督シテ補

助金ノ濫用ヲ防キ、進ンテ生産進歩ノ效果ヲ擧ケシムルコトハ甚タ困難ナルニ反シ、單一ノ專業的生産ニ對スル監督ハ比較的容易テアル。而シテ保護ヲ加フル企業ハ監督ノ便宜ヨリ云フモ之ヲ株式會社組織タラシムルノ必要カアル。又成ルヘク主要ノ瓦斯及骸炭製造業ニ關係ヲ有スル者ヲシテ之ヲ組織セシムルカ、若クハ其他ノ方法ニ由リ設立ノ初メニ於テ安全ニ「コールタール」ヲ取得スルノ途ヲ立テシムルコトヲ必要トスル。無論官營製鐵所ノ有スル原料モ保護會社ニ供給スルコトカ適當テアル。

産業保護ノ方法トシテ一般ニ行ハルルモノハ關稅保護テアル。此外種々ノ内地稅ノ減免モ多少ノ效力ハアルガ、主タル保護方法ハ關稅ニ由テ輸入品ノ競争ヲ制限スルコトテアル。然ルニ目下染料ノ輸入ハ殆ント杜絶シ、其價格力戰前ノ五六倍マテ暴騰セルモノ多キニ係ハラス、尙ホ其國內生産力頗フル困難テアルト云フ現狀ヨリ推セハ、近キ將來ニ於テ關稅力適當ノ保護手段トナルマテニ染料業カ發達シ得ルヤ否ヤハ疑問テアル。染料輸入ノ殆ント杜絶シテ其價格カ上述ノ如ク暴騰セル目下ニ於テハ、無論保護方法トシテ關稅ハ問題トナラナイ。或ハ原價ニ二倍三倍

スルカ如キ高率ノ保護稅ヲ設クルトキハ、近キ將來ニ於テ相當ニ保護ノ效果ヲ生
スルニ至ルテアラウガ、此ノ如キ高率ノ保護稅ハ染料ヲ使用スル一般工業ニ大ナ
ル打撃ヲ加ヘル。特ニ我國ハ織緯工業ヲ以テ基本的工業トシ、今後ハ其粗製ヨリ漸
漸精製ニ向ツテ發達スルコトヲ必要トスル。然ルニ織緯工業カ精製ニ進ムホド染
料カ其生産原料トシテ益々重要トナル。加之我工業上織緯工業ニ次テ重要ノ地位
ヲ占ムルモノハ所謂雜貨工業テアルガ、是亦割合ニ多量ノ染料ヲ使用スルモノテ
アル。故ニ染料ハ工業上他ノ原料ホド多量ノ消費ヲ要セサル補助原料テアルトハ
云ヘ、之ニ對シテ高率ノ保護稅ヲ設クルコトハ、我一般工業ノ進歩ヲ害スルノ弊カ
少ナクナイ。又我國ノ染料生産業カ幸ニシテ世ニ期待セララルカ如キ進歩ヲ爲シ
得タリトスルモ、近キ將來ニ於テ其生産ニ由リ國內需用ノ全部又ハ大部分ヲ充タ
スコトハ不能テアリ、其一部分就中複雜ナル品種ハ是非トモ輸入品ニ由テ充タ
サレ子ハナラヌ。此ノ如キ事情ノ下ニ於テ關稅ナルモノハ保護方法トシテハ有害
ニシテ效力カ少ナイ。關稅カ保護方法トシテ問題トナルモノハ、國內生産カ相當ニ
進歩シテ自國需用ノ大ナル部分ヲ充タスノ能力ヲ生シ、又餘リニ高率ナラサル關

税ヲ設クルコトニ由テ大ナル保護ノ效果ヲ現ハシ得ヘキ狀態ニ到達シタ時ニ於テデアル。此ノ如キ時機ノ到達ハ果シテ十年後ニ在リヤ又ハ十五年二十年ヲ要スルヤハ何人モ豫想シ難イ。故ニ差シ當リテハ關稅ヲ問題トスルノ必要ヲ見ナイガ、只タ戰後ニ至リ新タニ獨逸其他ト通商條約ヲ結フニ方リテハ染料ヲ協定稅目ノ中ニ入レス、國法ニ由テ自由ニ課稅シ得ルコトトシテ置クノハ必要テアル。

染料生産業ノ保護方法トシテ關稅ハ目下ノ問題トナラス、又營業稅其他ノ内地稅ノ減免ハ保護ノ效果乏シトスレハ、積極的ニ國庫ヨリ補助金ヲ與フルノ外ハアルマイ。元來補助金ヲ與フルニ付テ理想的ノ方法ヲ云ヘハ、一面其事業ニ少クトモ世間並ミノ利潤ヲ得セシメ、特ニ行政ノ手心ニ由テ妄リニ其金額ノ左右セラレサルノ保證ヲ與ヘ、又眞面目ニ事業ノ改良進歩ヲ圖ルニ從フテ益々多クノ利潤ヲ受クルコトヲ得セシメ、他面ニハ國庫ノ負擔ヲ成ルヘク少ナクシテ保護ノ效果ヲ成ルヘク大ナラシメ、補助金ヲ與フルニ付テ必要ノ監督ヲ行フコトヲ容易ナラシメ、特ニ之ヲ與フルニ際シテ官紀ノ腐敗ヲ生スルカ如キ弊害ヲ起ラシメサル方法テナクテハナラス。併シ此ノ如キ理想的ノ方法ヲ發見スルコトハ殆ント不能テアル。從來

行ハレタル主要ノ方法トシテハ配當補給ノ外ニ、特定航路補助ノ如ク交付總額ヲ一定シ、又ハ造船獎勵金ノ如ク生産ノ或單位ニ對スル交付額ヲ一定スルノ方法モアルガ、此ノ如キ定額交付ノ方法ハ染料生産ニ對シテハ不適當テアル。何トナレハ染料生産業ノ總體ノ收支ハ時日ノ經過ト共ニ著シク變動シテ之ヲ豫見シ得サル性質ノモノナル故、補助金總額ヲ一定スルコトモ出來ス、又其生産費及生産物ノ價格モ著シク變動スヘキカ故ニ、生産單位ニ對スル交付額ヲ豫シメ一定スルコトモ出來ナイ。特ニ此事業ハ前ニ述ヘシカ如ク漸進主義ヲ採ルコトトシテモ、技術的研究ト練習トノ爲メ相當ノ經費ヲ投セシムルコトヲ必要トスル故、單ニ目前ノ生産ノ結果ヲ標準トシテ補助額ヲ左右スルコトハ當ヲ得ナイ。果シテ然ラハ企業者ヲシテ安ンシテ事業ヲ起サシムルカ爲メニハ配當補給ノ方法ニ由ルノ外ハナイ。今回ノ獎勵法ハ十年間八歩ノ配當補給ヲ爲スノ規定ヲ設ケタガ、此ノ如ク補助ヲ十年間ニ限ツタコトニ付テハ多少ノ議論カアル。十年後ニ至レハ充分輸入品ニ對抗スル丈ケノ發達ヲ爲シ得ルヤ否ヤハ何人モ豫見シ得サル所テアリ、特ニ早クモ十年以內ニ於テ此ノ如キ自立ノ能力ヲ生シ得ルノ望ハ少ナイ方テアル。故ニ世人

ハ十年ノ補助丈ケテハ安心シテ事業ヲ起スマイ。昨今世上ニ傳ハレル染料會社設立計畫ナルモノハ何レモ不眞面目ナ授機のノモノテアツテ、眞面目ナ事業家ハ僅カニ十年間ノ保證ニ依頼シテ此難事業ニ手ヲ下タスコトヲ躊躇スルテアラウト云フ説モアル。此説ニハ一應ノ道理ハアルヤウテアルガ、併シ乍ラ「コールタール」精製工業ニシテ苟クモ特別ノ保護法ヲ設ケテ獎勵スルホド、我國ノ經濟上及軍備上必要ノ事業テアル以上ハ、不幸ニシテ十年後ニ至ルモ尙ホ或程度ノ保護ヲ必要トスル狀態ニ在ル場合ニハ、特ニ此ノ如キ狀態ニ在ルコトカ企業者ノ怠慢ノ結果ナラサル場合ニハ、國民ハ決シテ之ヲ見殺シニスルヤウナ態度ヲ探ルコトナク、必要缺クヘカラサル程度ノ保護ヲ繼續スルニ至ルテアラウト考ヘルコトハ、敢テ不當ノ想像ト云フヲ得ナイ。從ツテ此際眞面目ナ企業家ハ保護ノ程度ヲ不充分トシテ染料業ヲ起スコトヲ好マナイト斷言スルヲ得ナイ。現ニ航路補助ノ如キハ更ニ短期ノ年限ヲ付セラレテアルニ係ハラス、國民一般カ航海業ノ發達ヲ以テ經濟上及國防上甚タ重要ノ關係アルモノト認メテ居ル故ニ、企業者ハ安ンシテ之ニ巨額ノ資本ヲ固定シ、年々事業ノ擴張ヲ行ヒツツアルノ事實ヲ見テモ此事ハ明カテアル。

只タ前ニモ述ヘシカ如ク補助金下付ノ年限ヲ十年間ト豫定スル以上ハ、一面ニ於テ其事業ニ最初ヨリ巨大ノ資本固定ヲ爲サシムルコトヲ避タル所ノ漸進主義ヲ採リ、且ツ戰後獨逸ト通商條約ヲ結フニ方ツテ染料藥品ヲ協定稅目以外ニ置キ、自由ニ必要ノ保護稅ヲ設ケ得ルヤウニスルコトハ、今日眞面目ナ企業家ヲシテ染料業ヲ起サシムルニ必要テアル。

四

染料生産業ヲ保護スルカ爲メニ配當補給ヲ爲スハ已ムヲ得サル方法テアルトハ云ヘ、此方法ハ非常ノ弊害ヲ生スルノ虞カアル。彼ノ鐵道業ノ如キハ比較的ニ業務ノ手續カ簡明テアツテ、全體ノ收支ヲ正確ニ知ルコトモ難カラス、又其支出ノ中必要ノモノト否トノ區別モ割合ニ判斷シ易イノテアルガ、而モ曾テ私設鐵道ニ對スル配當賞給制度ハ頗フル濫用セラレタ歴史カアル。然ルニ染料生産業ハ鐵道業ノ類ト異ツテ頗フル複雑ナモノテアルカラ、非常ノ注意ヲ用ヒテモ補助金ノ濫用セラルル危險ハ頗フル大テアル。既ニ論シタ如ク公ケノ研究所カ存在シテ染料生産ニ關スル大體ノ智識ヲ政府ニ與ヘ、其研究ニ由テ經濟的ニ生産シ得ル見込ノ立チ

タル種類ヲ指定シテ保護會社ニ之ヲ生産セシメ、更ニ進ンテ生産及研究ノ爲メノ經費支出ノ大體ニ付キ豫シメ政府ノ承認ヲ得セシムルカ如キ手續ヲ取ルトキハ補助金ノ濫用ヲ防止スルニ付キ相當ノ效力ハアルガ、併シ是丈ケテハ決シテ充分トハ云ハレナイ。又一面ニハ政府カ深ク事業經營ニ立チ入テ個々ノ業務ニ干涉スルコトハ事業ノ進行ニ對シテ種々ノ不便不利ヲ生スルノ弊アルコトハ拒マレナイノテアル。

瓦斯業者骸炭業者ノ如キハ政府ノ補助ヲ仰カストモ、副業トシテ幾分カ染料製造ヲ爲シ得ナイテハナイガ、稍大規模ナル專業の染料製造特ニ戰後ニ至ツテモ存續シ得ル事業ハ政府ノ補助カナクテハ成立シ得ナイ。然ルニ政府ハ固ヨリ確實ナル企業ト認メタモノニアラサレハ補助ヲ與ヘサル故、今日染料會社ヲ設立スルニハ政府ノ承認ヲ要スルコトトナルノテアル。政府カ此承認ヲ爲スニ付テ至重ノ注意ヲ用ヒ成ルヘク確實ナル經營者ヲ擢ンテ之ヲ助クルコトトスレハ、事業ヲ發達セシメ且ツ補助金濫用ノ弊ヲ防クニ相當ノ効力ハアルガ、併シ會社ハ元來無形ノモノデアツテ、時日ノ經過ト共ニ其株主ト重役トニ大ナル變動ヲ生スルコトヲ免

レナイ。故ニ會社設立ノ際ニ於ケル監督、就中對人的注意ノミニ由テ弊害ヲ防止スルコトハ不能テアル。從來行ハレタル最モ嚴重ナ監督方法ハ日本銀行其他半官半民の事業ト稱セラルル諸事業ノ場合ノ如ク、政府カ其重役ノ任免權ヲ握ルコトアル。染料事業ニ對シテ配當補給ト云ヘル寛大ノ補助方法ヲ設ケタ以上ハ、一面ニ其補助ノ濫用ヲ防ク爲メ、特ニ目前ノ利益ヨリモ將來ノ發展ノ爲メニ努力セシムルカ爲メ、之ニ對シテ重役任免ノ如キ嚴重ノ監督方法ヲ設クルコトカ至當テアル。今回ノ獎勵法第五條ニハ保護會社ノ業務ヲ監督スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スノ權限ヲ主務大臣ニ與ヘテアル。此條文ハ政府ニ會社重役任免ノ如キ重大ナ監督權ヲモ附與シタルモノト解釋シ得ルト信スルガ、此解釋ニ對シテハ反對ノ意見モ生スルテアラウ。予輩ハ此點ニ付テ更ニ専門學者ノ研究ヲ煩ハシタイ。

最後ニ若シ政府 染料會社ノ株式ノ約半數ニ達スルカ如キ大ナル部分ヲ所有スルナラハ、事實ニ於テ重役任免權ヲ有スルト相似タル監督作用ヲ行フコトヲ得ルト同時ニ、政府カ染料業ニ對シテ此ノ如ク重要ノ出資者トナルコトハ、事業ノ前途

ヲ保證スルノ意味ヲモ生スル。故ニ不幸ニシテ有力ノ事業家ノ染料業ヲ起スコトヲ躊躇スル場合ニモ、此方法ヲ探ルトキハ確實ノ事業ヲ成立セシムルコトカ出來ル。既ニ論セシ如ク染料業ヲ初メヨリ大規模ノモノトセス、公ケノ研究所ト提携シテ進ムノ方針ヲ取ルトキハ、政府ノ株式取得ノ爲メニ費スヘキ資金モ巨額トナラス、加フルニ政府ノ持株ニモ配當補給ヲ附セラルル故、國庫ノ年々ノ補助金支出額ハ夫レ丈ケ減少セラレル結果トナル。故ニ此方法ハ財政上著シキ負擔トハナラナイノテアル。若シモ不幸ニシテ會社ノ成立カ行キ惱ムカ如キ場合ニハ、此方法ヲ採用シテ會社ノ成立ヲ助クルト同時ニ之ヲ活用シテ實際上ノ監督ヲ行フコトカ得策テアル。